

日本建築学会北海道支部
2007 年度 通常総会

日時 2007 年 5 月 18 日 (金)
会場 北海道第二水産ビル

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2007 年度総会議案

2006 年度事業報告

2006 年度事業計画・活動方針に基づき精力的な活動を実行してきた。5 月には 2 年間にわたり検討してきた、中長期戦略検討 WG からの報告書が示され、ここで強調された 3 つのテーマについて以下の進展が見られた。

学会支部運営（会員増強・財政強化・財政改善）の内、委員会余剰金の事務局返納は徹底しつつある。

支部体制の見直し（専門委員会・特定課題委員会・支部ホームページ管理委員会・地方組織）の内、ホームページ管理委員会は改編し、機能を取り戻した。

支部活動の活性化（支部研発表会・建築賞・情報提供・建築教育）の内、支部研の電子投稿化とプロシーディングの CD 化が実現した。建築賞の発表は総会から文化週間時期に移行し、文化週間事業としての講演は好評裏に終了した。また、地域連携、技術振興、賛助会員増強の足がかりとして、北海道支部技術賞創設の議論及び検討に入った。加えて、日本建築学会創立 120 周年記念行事が北海道支部においても開催され、滝川市を舞台に提案協議、写真・絵画コンクールを実施し、会員・市民を対象とした作業所見学会（札幌駅北口 8 . 3 東スクエア）が実施され盛況裏に終わった。

1 . 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2006 年 5 月 19 日
会場 北海道第二水産ビル
出席正会員 63 名（委任状 28 通）

当支部地域在住正会員 905 名の 30 分の 1、30 名以上の出席により成立

2005 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2006 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

常議員会

6 回開催

常任幹事会

7 回開催

選挙管理委員会

1 回開催

2 . 学術系委員会の活動

2 . 1 学術委員会（主査：武田 寛君 委員数 16名 委員会開催数4回）

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会に伝達するとともに、各専門委員会からの企画及び活動の報告を受ける。また、支部研究発表実行委員会の企画の審議と承認、特定課題研究及び建築文化週間事業の選考を主な業務としている。

- ・ 支部研究発表会の再検討：各専門委員会から意見を聴取した結果、現行の方法がベターであることを確認した。
- ・ 特定課題研究：「JASS における寒冷地工事仕様の対応調査研究」（材料施工専門委員会）を採択した。2 年間
- ・ 建築文化週間：「函館の歴史と歴史的建造物を探訪する」（歴史意匠専門委員会）と「津波防災まちづくり体験学習」（都市防災専門委員会）の 2 件を採択した。
- ・ 支部技術振興賞（仮名）：新たな賞の設置について審議し、承認された。今後、規定のたたき台を作成し常議委員会で検討することとなった。

2.2 専門委員会の活動

材料施工専門委員会（主査：濱 幸雄君 委員数 22 名 委員会開催数 4 回）

本年度は、専門委員会を2～3ヶ月に1回程度の割合で、計4回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会など各種委員会報告や諮問事項について検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換を行った。また、最近の研究動向についての話題提供と意見交換を行った。

2006年12月6日（水）に「大成札幌ビル」見学会・技術紹介（主催：北海道建築技術協会）を構造専門委員会とともに後援した。道内巡回講演会「高強度コンクリートを用いた高層 RC マンションの施工事例（講師：深瀬孝之委員）」を2006年11月6日（火）に北見工業高校にて実施した。また、2007年3月13日（火）にKKR札幌で田畑雅幸委員（北海道職業能力開発大学校）の退職記念講演会「新潟～北大・能開大の38年（凍害研究と寒冷地諸問題への取り組み）」を開催した。

構造専門委員会（主査：桜井修次君 委員数 19 名 + 加ザバ - 1 名 委員会開催数 4 回）

定期的に委員会を開催して構造関連の情報交換を行い、下記の活動を行った。特に、委員会活動をより活発化するため日本建築構造技術者協会（JSCA）北海道支部と協力して講演会を行った。

- 1) 委員会開催：例年どおり委員会を4回行った（6月27日、9月28日、12月7日、3月12日、このうち8月と3月はメールにより開催）
- 2) 見学会
2006年10月23日「学生のための鉄工所見学会」：丸吉鉄鋼株式会社発寒工場（札幌市西区発寒12条13-1-1）の見学会を行った。参加者15名。
2006年12月6日「大成札幌ビル」見学会：北海道建築技術協会主催（本委員会後援）により大成建設札幌支店新社屋の見学会が行われた。参加者75名。
- 3) 講演会
2006年10月5日「新しい構造計算法の基本的考え方」講師・緑川光正君（北大）：本委員会およびJSCA北海道支部共催により講演会を行った。参加者40名。
2007年3月20日「ひび割れを念頭においたRC造の設計」講師・南出孝一君（ドーコン）：本委員会およびJSCA北海道支部共催により講演会を行った。参加者40名。
- 4) 講習会
2006年11月17日「鉄筋コンクリート組積造（RM造）講習会」：建築研究振興協会主催（本委員会後援）により講習会が行われた。
- 5) 特定研究課題「地震等による建築災害調査方法の研究」の実施（主査：後藤康明君（北大）：「建築災害調査方法委員会」を立ち上げ、3つのWGを設置した。3回の委員会を開き活動の具体的検討や作業を行った。

環境工学専門委員会（主査：石田 秀樹君 委員数 30 名 委員会開催数 5 回）

本年度は、委員会を5回開催し、環境工学本委員会など各委員会の報告や、各委員からの最新の話提供などを通じて、環境に関する情報交換や勉強会を行った。

「特色ある支部活動企画」として、農業分野への建築技術の応用を目的とした「積雪寒冷気候を生かした低コスト貯蔵技術による農業生産環境改善への貢献」の活動を行い、新十津川町と長沼町で、農業の技術者を交えて意見交換会と見学会を開催した。

北方系住宅専門委員会と共同の特定課題研究委員会「中高層マンションの外断熱改修研究委員会」や北海道建築技術協会の「断熱建物の夏対応研究委員会」への研究協力を行ったほか、道内各大学の学生による、「環境工学系・卒業論文発表会」を試行した。

また、東京工業大学の梅干野先生を招き講演会を開催した。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 15 名 委員会開催数 4 回（ネットミーティングを含む））

前年度に引き続き「特色ある住民参加型の建築計画事例の発掘」に取り組む一方、コンテンツ

管理システム（CMS）XOOPS の試行を行った。なお、XOOPS の管理には手間が掛かる側面があり、簡便化の方策として（LMS）Moodle を CMS 用途に工夫して平行試行しているところである。次の URL から参照頂ける。

<http://www.kenchiku-keikaku-hokkaido.net/xoops/>
<http://www.kenchiku-keikaku-hokkaido.net/moodle/>

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君 委員数 16 名 委員会開催数 3 回）

都市計画委員会では北海道の諸都市で課題となっている、コンパクトシティとまちなか居住に関する研究会を一貫して続けており、会員以外も広く参加している。平成 18 年度はおもに 5 つの活動を進めた。まちなか居住に関する民間事業者のイニシアチブで進める、まちなか居住ファンドについて、4 月 28 日に講演会を行った。本部都市計画委員会と共催で、コンパクトシティ研究会を 11 月 4 日に行い、20 名の参加者を得た。都市計画委員会が中心となり、会員以外も参加する「まちづくりプラットフォーム」を継続し、4 月 28 日、11 月 20 日、3 月 15 日に都市計画委員会と合同で研究会を行った。道内巡回講演に都市計画委員会より参加し、11 月 22 日に講演会を行った。学会会長直属の組織である「まちづくり支援建築会議」に、引き続き当委員会から積極的にメンバーが参加登録している。「まちづくりセミナー」にも委員会から参加している。

歴史意匠専門委員会（主査：伊藤 大介君 委員数 19 名 委員会開催数 5 回）

例年どおり、道内各地の歴史的建造物の現状を把握し、保存・活用に関する意見を委員間で共有し、必要に応じて学会として社会に発言する活動を行った。2004 年度から文化庁、北海道教育委員会の調査に協力し、それを発展させた特定課題研究「北海道の近代和風建築調査研究委員会」の 2 期目を継続した。対外的な意見表明として、「道立博物館施設への指定管理者制度導入に関する要望書」（道知事・道教委教育長・道議会議長あて）を提出した。また、支部長名による「旧夕張鹿ノ谷倶楽部（夕張鹿鳴館）の保存に関する要望書」（道知事・夕張市長あて）の作成に協力した。市民への啓蒙活動として、建築文化週間中の 10 月 14 日に「江別市内の歴史的建造物と煉瓦生産を訪ねる」と題する建築見学会を実施し、道内外から 37 名の参加者を得た。

北方系住宅専門委員会（主査：絵内 正道君 委員数 23 名 委員会開催数 4 回）

本年度は、委員会の新陳代謝、活性化のために、委員 23 名に対し、社会資産としての住宅、これからのライフスタイルに係った話題提供活動、今後の参加意向、委員会活動への要望等についてアンケート調査を行った。その後の第 3 回委員会における北総研：松村博文氏による話題提供「北海道の住まいづくりの現状、課題」とその討議を通じ、今後の委員会の主題と方向性が見えてきた様に思われる。本委員会の幹事として長期間お世話を頂戴した北大教授・野口孝博先生がご逝去された。そのご協力に心より感謝すると共に、ここに謹んで哀悼をささげる。

都市防災専門委員会（主査：南 慎一君 委員数 21 名 委員会開催数 2 回、幹事会 3 回、通信委員会 8 回、WG 複数回）

建築文化週間事業「津波防災まちづくり体験学習 in はまなか」の企画、運営を行った（参加者 59 名）。他学協会との連携は、自然災害研究協議会北海道地区防災フォーラムを連携して開催した。自然災害調査は、構造専門委員会及び建築災害調査方法研究委員会と合同で支部内に 2006 年佐呂間町竜巻被害調査委員会を設置し、日本風工学会と連携した調査研究を実施した。また、構造専門委員会と合同で支部研特別企画「風災害の事例と建築物の安全性の向上」を提案し採択された。工業高校巡回講演会は、伊東敏幸君（北海道工業大学）の講師により 2006 年 12 月 7 日に函館工業高校で開催された。

報告書：（社）日本建築学会北海道支部建築文化週間事業「津波防災まちづくり体験学習 in はまなか」（CD-R）

2.3 特定課題研究委員会の実施

(2005年度より)

寒中コンクリート調査研究委員会(主査:深瀬 孝之君 委員数13名 委員会開催数
委員会5回)

1)研究発表

日本建築学会北海道支部研究発表会(2006/7/1)

北海道内の実務者を対象とした寒中コンクリートに関するアンケート調査結果
-寒中コンクリート施工調査研究委員会中間報告-

2)活動内容

北海道内のプラント・施工会社を対象としたアンケート調査(2006/02 実施)を分析するとともに、東北圏内のプラント・施工会社を対象としたアンケート調査を実施した。また、北海道内の調査では、調査計画手法とその選定理由が整合していなかったため、北海道内のプラントを対象とした再調査を実施した。

本委員会の活動成果は、寒中コンクリートに関する実態や技術的課題をとりまとめ、北海道支部研究発表会において公表する。

表1 本委員会が実施したアンケート調査(参考)

地域	対象	配布数	回収数	回収率	調査時期	調査方法
北海道	施工会社(管理部門)	338	82	0.24	2006/02	郵送による配布、FAX・メールによる回収
	施工会社(作業所)	-	117	-	2006/02	管理部門に調査票を郵送、FAX・メールによる回収
	生コン工場	289	198	0.69	2006/02	FAXによる調査票の配布・回収(セメント5社に依頼)
	生コン工場(1次再調査)	180	105	0.58	2006/10	FAXによる調査票の配布・回収
	生コン工場(2次再調査)	46	34	0.74	2006/10	FAXによる調査票の配布・回収
東北	生コン工場	158	59	0.37	2006/11	FAXによる調査票の配布・回収(セメント1社に依頼)
	施工会社(管理部門)	5	5	1.00	2007/01	FAX・メールによる調査票の配布・回収(5社に依頼)
	施工会社(作業所)	-	15	-	2007/01	FAX・メールによる調査票の配布・回収(5社に依頼)

(2006年度より)

建築災害調査方法研究委員会(主査:後藤 康明君 委員数10名,委員会開催数3回)

1. 第1回委員会 2006年9月14日(木) 出席7名
 - ・活動方針及び今年度の活動計画について協議した
 - ・3つのWG(現地調査方法、データベース作成活用,調査組織)を立ち上げることにした
 - ・学会の調査の意義を検討するため自治体の災害担当者に対してアンケートを行うことを決定
2. 第2回委員会 2006年11月20日(月) 出席7名
 - ・各WGの活動計画について協議した
 - ・自治体担当者アンケート内容を決定した
3. 第3回委員会 2007年3月30日(金) 出席6名
 - ・現地調査方法に関するアンケート内容について協議した
 - ・次年度活動内容について各WGの方針を確認した
4. 自治体災害担当者向けに災害調査のあり方についてアンケート調査を行った
5. 佐呂間町竜巻被害調査報告会を企画し実施した(2006/11/20) 参加10名
 - ・北方総研の南氏から被害概要について報告を頂いた
 - ・学会支部としての今後の対応について協議した
6. 竜巻災害調査のため支部の災害調査基金による調査委員会設置を提案し承認された

北海道近代和風建築調査研究委員会（主査：羽深久夫君 委員数 10 名 委員会開催数 5 回）
2004 年度より実施した北海道近代和風建築調査研究委員会の「北海道の歴史的建造物おける和風意匠の展開過程」の研究成果を踏まえるとともに、2004 年度より 3 ヶ年計画で文化庁・北海道教育委員会が行っている「北海道近代和風建築総合調査」と連携をとり、14 支庁ごとの和風意匠の特徴について、平面の実測調査や細部意匠の写真撮影を行い、地域ごとの和風意匠の特徴と、全道的な視点にたちながら地域相互間の和風意匠の相関関係を明らかにするために、「北海道の近代和風建築における建築意匠の展開過程と地域の特徴」という研究課題のもと、道南地区の特徴（渡島・檜山）道央地区の特徴（石狩、後志、空知、胆振、日高）道北地区の特徴（上川、留萌、宗谷）道東地区の特徴（網走、十勝、釧路、根室）のそれぞれの特徴を検討し、総括として北海道全体の近代和風建築の特徴を検討した。

研究成果の一部は、日本建築学会北海道支部北海道近代和風建築調査研究委員会：「北海道の近代和風建築における和風意匠の地域の特徴」（日本建築学会北海道支部研究報告集 No.79、pp.373~380、2006.7）において報告したが、初年度の研究成果は北海道支部第 80 回研究発表会にて報告予定である。

2.4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2005 年度より)

中高層マンションの外断熱改修研究委員会（主査：佐藤 潤平君 委員数 14 名 委員会開催数 7 回）

当委員会の目的は、2004 年に札幌市内で実現した、11 階建てのマンション（大通ハイム）の外断熱改修を実例として、外断熱改修に至った過程や改修コストについて分析すると共に、経済、室内環境、エネルギーなど改修に関わる総合的な評価を行い、中高層民間分譲マンションの外断熱改修システムの確立をめざすことである。

2006 年度は、7 回の委員会を開催し、外断熱改修のディテールの検討や計画段階での概算コストの把握方法、及び外断熱改修を実施した場合の長期修繕計画などについてまとめた。

2 年間の研究により、マンションの外断熱改修にはいろいろな面で優位性があり、現実的な選択肢となりうるということが検証された。

特色ある支部活動

積雪寒冷地気候を活かした低コスト貯蔵技術による農業生産環境改善への貢献

（主査：石田 秀樹君 委員数 8 名 委員会開催数 4 回）

シンポジウム 1 回目(7 月 18 日)「環境技術の農業生産への貢献の可能性(於：滝川、新十津川)」：新農業未来塾、滝川市他の協力を得て、回収型半熟生コンポストや人工氷室の見学を行い、富良野卸売市場、ムーミン村、滝川市、農家、農機具制作の方々を含む延べ 15 名の参加を得て、農業が直面している課題や建築技術の応用の可能性について意見交換を行った。シンポジウム 2 回目(10 月 28 日)「環境技術の農業への応用 実用化の可能性と課題(於：長沼)」：近隣の農家を含む延べ 12 名の参加を得て、メノビレッジ長沼で進められている保冷・保湿貯蔵や穀物の冷却乾燥、温室利用等の施設見学を行い、断熱材を構造体とする冬野菜用の試験貯蔵庫の組み立てを行った。現在、試験施設等の温湿度計測を継続しながら、農業関係者との技術連携推進資料として、生産現場の課題や環境技術の応用例等を取りまとめている。

3. 委託調査研究の受託

なし

4. 支部研究発表会の実施（主査：千歩 修君 実行委員会委員17名 委員会開催数5回）

研究報告集 No.79(収録数:126 編)を作成し、第 79 回支部研究発表会を以下のように開催した。
日時：2006 年 7 月 1 日(土)

場所：北海道東海大学（旭川）

参加者数：約 130 名

特別企画：Part1：村上周三 日本建築学会会長特別講演会「地球環境とサステナブル建築」

Part2：シンポジウム「期待される学会活動のあり方」

村上周三（日本建築学会会長・慶応大学教授）

小野徹郎（日本建築学会副会長・名古屋工業大学教授）

繪内正道（日本建築学会北海道支部長）

城 攻（前日本建築学会北海道支部長）

野口孝博（前日本建築学会北海道支部学術委員長）

小篠隆生（日本建築学会北海道支部常議員幹事）

司会：門谷眞一郎（北海道東海大学教授）

5．表彰

5．1 北海道建築賞

北海道建築賞委員会の活動（主査：大萱 昭芳君 委員 7 名 委員会開催数 4 回）

審査員：

主 査：大萱 昭芳君

委 員：内田 光彦君 大矢 二郎君 小篠 隆生君 鈴木 敏司君 前川 公美夫君

山田 深君

本委員会は 1975 年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建設された建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞に相応しい作品を選考し、2005 年度で 31 回目となった。選考の基準としては、作品が有する「先進性」、「規範性」および「洗練度」の 3 つを掲げている。北海道建築賞の一層の発展を目指して、2006 年度は活動計画に基づく大幅なスケジュール改正の実施年度となり、10 月 28 日（土）17：00 から北海道大学遠友学舎で、2005 年度北海道建築賞授賞式および受賞記念講演会を開催した。講演後の懇親会を含めて盛会となり、北海道建築を考える良い機会となった。

受賞記念講演会：

講師 石黒 浩一郎君 金箱 温春君 保科 文紀君

コーディネーター：小篠 隆生君

5．2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

（1）卒業設計優秀作品審査委員会（主査：渡邊 広明君 委員数 6 名 委員会開催数 1 回）

2006 年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、審査方針の確認とともに各委員選定の候補作品について推薦を行い、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の分野別に候補作品各々について合同において再審査し、合議の上、各賞を選出した。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：

主 査：渡邊 広明君

委 員：加藤 誠君 上遠野 克君 小西 仁彦君 斉藤 徹君 中山 眞琴君

（2）受賞者

大学の部（応募作品数 10 点）

・金賞 小林隆行君：北海道工業大学工学部建築学科

作品名 密度の森～アフォーダンスによる建築～
・銀賞 尾口晴基君：室蘭工業大学建設システム工学科

作品名 湯の輪
・銅賞 小瀧奈々君：北海学園大学工学部建築学科
作品名 Boundary line of fetal movement
- - - 胎動の境界線 - - -

短大・高専・専門学校の一部（応募作品数6点）

・金賞 西田秀己君：釧路工業高等専門学校建築学科
作品名 線路のところ（小樽市旧手宮線跡地北部における新しい観光と生活スタイルの提案）

・銀賞 葛西 敦君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 Voronoi Diagrams

・銅賞 鈴木雅三君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 Carry Space

工業高校の一部（応募作品数5点）

・金賞 真鍋清美君：北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 Cubby ～新しい感性・豊かな環境～

・銀賞 森 文也君：北海道名寄光凌高等学校建築システム科
作品名 総合型コンサートホール サンピラーホール

・銅賞 是元佑太君：北海道旭川工業高等学校建築科
作品名 「Second Development」

(3) 審査講評

大学の部

金賞・小林君

アフォーダンス、物体が持つ属性（形・色・材質・・・etc）が、物体自身をどう扱ったら良
いかのメッセージを物体自体がユーザーに発しているというものであり、知らずとも物体のほ
うから扱いを教えてくれるという現象を建築化したものである。高分子材料（ゴム・樹脂）の
チューブが主たる材料となり床壁の全てがチューブの長さや固さなどにより構成され、さらに
構造や断熱にもなり、また長短の状況により座る、転がるなどのアクティビティが誘発され魅
力ある空間となっている。人間を包む住居としての可能性をある側面から徹底的に追求した秀作
となっている。平面計画にも提案があると欲はひろがる。

（文責：小西 彦仁君）

銀賞・尾口君

隠れ家設計士と呼ばれているらしい僕にとって、「湯の輪」は現実的でもあり、又、同時に
非現実的でもあった。全体にリンクする埋没された建築は自然と湯と人との相関をテーマにし
たものだった。実直で本来の建築の役目を素直に表現した素晴らしい作品である。豊かさとは、
行方ないプログラムなんかよりずっと役に立つ。そして人を幸せにするものだと思う。あま
りにも過度の操作をされた作品に刺激は受けるものの、なんの感動もない。それは一過性にす
ぎない事を我々は知っているからである。そんなムーブメントの中で、あえて単純に豊かさを
求めた作品である。

（文責：中山 眞琴君）

銅賞・小瀧君

この建築のテーマは現代の醜悪な橋を建築の力でどうにかしようという意欲的な作品である。

もっと川と人々が触れ合ってほしいと、季節によって、又は毎日変化することに着目したことや、一部水没する様はなかなか秀作である。金賞に次いで2番目の票であったが、検討の末銅賞に留まったが、金賞の場所性のないライトなフェースよりヘビーで僕としては好感が持てた。形態的にはかなりグロテクスでシャープなのが印象に残ったが、バースアイでないとこの全貌が分からないのがとっても残念である。あらゆる角度から検討されつくした力作である事は間違いない。

(文責：中山 眞琴君)

短大・高専・専門学校の一部

金賞・西田君

小樽手宮における、地元アーティストのための活動の場と観光施設を組み合わせ、意欲的なコンプレックス案である。様々な施設に特徴ある形態を与え、それらを緑で覆われたパーゴラによって緩やかに連結させることで、複合施設としての一体感と、光に満ちた多様な場所をつくることに成功している。今後の展開として、個々の施設の独立性を弱め、機能の一部を可能な限りパーゴラシステムに融解させることで、より活動的な場所をつくとともに、利用者相互の交流を促す仕組みについて考えてほしい。

(文責：加藤 誠君)

銀賞・葛西君

この作品は、ヴォロノイ分割という方法で空間の決定をおこなうことにより、新しい空間をつくらうというものである。また設計者の恣意性を可能な限り排除することも目的であるという。しかし、建築をつくる行為が発生した時点で建築空間が持つ機能进行处理することが必然となりそれは極めて設計者の思惑のままに決定されていくのである。この空間がもう少し単機能なものであればピュアにこの方法と空間が解けたのではないかとおもいつつも、このようなテーマを具現化しようとする意欲は賞賛できる。

(文責：小西 彦仁君)

銅賞・鈴木君

1820×910×21 のシナ合板を6分割したパネルを交差組合せしたものを基本UNITにし、金属製ジョイント金物で床・柱・梁を構成し、それらを組み合わせる事によって出来る可搬空間の提案。各UNIT、金物、モックアップのプレゼンテーションは正確で美しいのですが、ジョイント金物のオリジナルな展開と、単にキュービックな空間だけではなく、多様な組合せによる連続的空間、又、屋根・床・外壁素材への提案がなされていると、より多様な可搬空間の表現が出た様に思います。

(文責：上遠野 克君)

工業高校の一部

金賞・真鍋君

ゆとりと安らぎ、自然との接触をテーマした幼稚園の計画である。間仕切りの少ないオープンな構成の園舎をグループ別に分節化させて、それぞれを住宅のような立体スケールでとらえている。さらに中庭の自然環境を間に挟みながらこの園舎を連棟させた配置形式を採用している。オーソドックスではあるが基本を踏まえた計画力を第一に評価したい。バルサ材で制作した園舎棟と芝生の外観模型も力作で十分評価したい。できれば、中庭の活用をイメージさせる図面表現がほしいところである。

(文責：齊藤 徹君)

銀賞・森君

合併という地域の新しい枠組みの中で求められる、多機能な総合型ホールの提案である。作者の強い建築への思いは、細部までこだわった力強さを感じる模型に込められている。計画における動線への配慮は、平面図に現れている。ただ、断面図においては内部空間を、立面図や屋根伏せ図では素材感や立体感を表現できれば良かった。バランスのとれた完成度という点において、銀賞に甘んじた。今後の修練を期待します。

(文責：渡邊 広明君)

銅賞・是元君

都市計画を視野に外部空間のあり方を提案した作品である。旭川の賑わい空間を取り戻すことをテーマに、飲食街、買物公園とイベント広場を新たに構成した都市軸上に配置し、その都市軸を45度に振ることによって既存の地区間を結びつけたダイナミックさが印象的である。

パースやアイソメトリック表現を試み、都市デザインを卒業設計の対象した姿勢を評価したい。一方、外部空間とストリートファニチャー類のスケールの整合性は今後の課題としたい。

(文責：齊藤 徹君)

5.3 優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

2006年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

野内 美菜君・中川 武君：北海道大学工学部建築都市学科
天野有梨香君・川端 健市君：北海学園大学工学部建築学科
藤嶋 健太君・遠藤 拓也君：北海道工業大学工学部建築学科
太田かおり君・片桐 有也君：室蘭工業大学工学部建設システム工学科
山田 恒義君・菊地 未緒君：北海道東海大学芸術工学部くらしデザイン学科
千葉 泰明君・米谷 和樹君：道都大学美術学部建築学科
高橋 百恵君・渡部 雅央君：釧路工業高等専門学校建築学科
国沢 有希君：札幌市立高等専門学校専攻科インダストリアルデザイン専攻
麦島 泰子君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科
高根 育子君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
加藤 智美君：北海道職業能力開発大学校建築科
前田 達也君：北海道立正学園旭川実業高等学校建築科
太田 和彦君：北海道札幌工業高等学校建築科
算用子丈昇君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
津賀尾大和君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
渡邊 政和君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
東出 亮二君：北海道函館工業高等学校建築科
上野 圭司君：北海道函館工業高等学校定時制建築科
橋本 憲幸君：北海道旭川工業高等学校建築科
津野 恭行君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
小石 貴祐君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
二瓶 桃子君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
鉾館 亮治君：北海道帯広工業高等学校建築科
石田 享君：北海道釧路工業高等学校建築科
森 文也君：北海道名寄光凌高等学校建築システム科
江間 孝行君：北海道美唄工業高等学校建築科
向 将幸君：北海道留萌千望高等学校建築科
細川 司君：北海道北見工業高等学校建築科

5.4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功勞のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。2006年度は、最も長期に亘り支部会員を継続された以下14社の法人・賛助会員表彰した。

株式会社 バコーポレーション 札幌支店
西松建設 株式会社 札幌支店
荒井建設 株式会社
伊藤組土建 株式会社
岩倉建設 株式会社
岩田建設 株式会社
株式会社 田中組
株式会社 地崎工業
飛鳥建設 株式会社 札幌支店
日本防水総業 株式会社
丸彦渡辺建設 株式会社
宮坂建設工業 株式会社
道都大学附属図書情報館
北海学園大学附属図書館

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会(主査:小篠 隆生君 委員数3名 実行委員10名 委員会開催数4回(実行委員会1回を含む))

ここ2年間で定着してきた12月初旬発表会開催というスケジュールを継承し、北海道建築作品に対するフラットな発表と議論の場を提供することを念頭において、本年のスケジュールと内容を決定した。また、効果的な経費削減に取り組み、応募案内等の支部HPの活用や、プログラム・ポスターの経費見直し、作品集の原価圧縮などに取り組み、収支の好転を目指した。さらに、発表形式についても作品紹介、質問募集、発表という昨年の形式を踏襲することを委員会で決定した。

また、建築賞委員会、事業主査連絡会、さらには、常議員会との協議により、今回から作品発表会にエントリーされた作品は、同時に北海道建築賞への推薦に対する参考作品とみなされることになった。

実行委員会は、7名の実行委員を加え10名で組織した。発表方式の変更の確認、作品の受付、プログラム編成、プレフォーラムという流れに沿って3回開催した。すべての発表はPowerPoint等によるPCを使ったものとし、結果的に38作品という例年より多くの作品が集まり、盛況な開催となった。

12月1日に第26回建築作品発表会を北海道立近代美術館講堂で開催、作品集VOL.26を発刊した。発表会での議論の記録、発表作品の分析等を含めた活動記録と評論を北海道建築士事務所協会誌「ひろば」12月号に中渡憲彦君が、建築雑誌3月号に山田深君が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

第26回北海道建築作品発表会

期日 2006年12月1日

会場 北海道立近代美術館講堂

発表作品数 38題

大変好評であった発表作品に対する発表者と来場者との議論の活性化を目指した事前質問募集、

全発表者に対する均等な発表時間の割当という昨年より実施したプログラムを今年も踏襲して発表会を行った。今回集った38作品もデビューする若手の作品から、従来より北海道建築界の先導役となってきた重鎮の方の作品まで多彩にそろい、そういう意味でも多様な議論が展開される発表会となった。これは、本発表会が北海道における建築作品の発表の場として広く定着して来ていることを示すものであると理解できる。26回という長い歴史を持つ発表会を今後も持続しつつ、絶えず時代に即応したニーズを汲み取りながら、学会における建築作品の発表の場を築いていきたい。

参加者約400名。「北海道建築作品発表会作品集 2006 VOL.26」を発刊。

7. 特別委員会

7.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査、事業系担当常議員、連絡会開催数1回）

建築賞委員会より出された、建築賞受賞者講演を総会より切り離し、別の機会に設けることは、2006年10月に第31回の北海道建築賞授賞式と記念講演会が実施され、2007年度より建築文化週間の中で実施されることとなった。また、作品発表会に発表された作品が、建築賞への推薦候補作品になることについても、事業主査連絡会を通じて、それぞれの委員会主査の合意が得られ、2007年度より実施される。

卒業設計審査委員会より出されていたHPへの入選作品の掲載については、HP管理委員会との連携の中で、実現の方向で検討する。

7.2 総務委員会（委員長：羽山 広文君 委員数4名 委員会開催数3回）

北海道支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理について主に検討を行い、四半期に一度の頻度で常議員会にて報告を行った。また、次年度の予算案策定について検討した。日本建築家協会北海道支部との合同委員会において、合同事務所の利用・移転に関する事項を協議した。また、建築関連の情報交換を行うとともに、合同企画についての検討も行いジョイントセミナー（1回：小澤丈夫助教授 8/30）を実施した。

7.3 ホームページ管理委員会（主査：十河 哲也君 委員数5名）

当委員会は、2001年4月に開設された当支部ホームページの管理を活動の目的とし、委員会の定例開催は特に設定していないが、掲載内容等について適宜通信により協議することとしている。2006年10月の常議員会において、常議員会と密接に連携しながら迅速円滑で効果的なホームページの運用をめざすため、当委員会の業務機能の一部改正が承認され、これまでの常議員2名体制から、常議員2名を含む5名の委員で管理運営を行うこととしたホームページ管理委員会規定が制定された。2007年1月に初回の委員会を開催して更新等の管理方法について確認し、以降、講演会の開催案内、北海道支部研究発表会や北海道建築作品発表会の募集案内等の掲載を行い、北海道支部の広報として活動した。また、情報収集や提供に遺漏のないよう年間の掲載予定を事前に作成して対応することとした。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8.1 講習会

(1) 本部主催講習会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
2006年度支部共通事業「JASS6・鉄骨工事技術指針・鉄骨精度測定指針」改定講習会	2007.2.20	ホテルノースシティ	津山 巖君 他3名	112名

(2) 支部委員会主催講習会（セミナー）

なし

8.2 講演会

(1) 本部主催講演会

なし

(2) 支部主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
「第31回北海道建築賞授賞式・記念講演会	2006.10.28	北海道大学遠友学舎	石黒浩一郎君 金箱温春君 保科文紀君 小篠隆生君	約60名
「高強度コンクリートを用いた高層RCマンションの施工例」	2006.11.6	北海道北見工業高等学校	深瀬孝之君	39名
「将来の街、発見！」	2006.11.22	北海道立旭川工業高等学校	瀬戸口剛君	80名
「雪と建築」	2006.12.7	北海道立函館工業高等学校	伊藤敏幸君	79名
第26回北海道建築作品発表会	2006.12.1	北海道立近代美術館大講堂	作品数38点	約400名
「オフィス建物における空気質(VOC)の管理	2007.2.9	北海道大学工学部会議支部	John Shaw	47名

(3) 支部委員会主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
「積雪寒冷地を活かした低コスト貯蔵技術による農業生産環境改善への貢献」 (環境工学専門委員会)	2006.7.6 (1回目)	(株)レピオ 「ピンネ荘」	荒谷 登君 他3名	1日目 15名
	2006.10.28 (2回目)	メノビレッジ長沼		2日目 8名
「新しい構造計算方法の基本的考え方」 (構造専門委員会)	2006.10.5	札幌テレビ塔	緑川光正君	約40名
「環境荷重の少ない快適な街づくりをめざして」- リモートセンシングと3D-CAD対応型熱収支シュミレーション - (環境工学専門委員会)	2006.10.10	北海道大学百年記念会館大会議室	梅千野晁君	41名

体験学習「津波防災まちづくり in はまなか」 (都市防災専門委員会)	2006.10.14	浜中町総合文化センター	大柳佳紀君	59名
第1回(2006年度)環境系・卒業論文発表会 (環境工学専門委員会)	2006.3.2	北海道大学工学部会議室	発表者22名	35名
「ひび割れを念頭に置いたRC造の設計」 (構造専門委員会)	2007.3.20	札幌テレビ塔	南出孝一君	40名

8.3 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2006.5.17 ～5.19 5.25～28 6.2～6.4 11.8～10	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道東海大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	250名 430名 130名 200名
2006.7.10 ～11.27	道内工高卒業設計優秀作品巡回展	道内工高13校	

8.4 見学会

開催日	見 学 場 所	解説者	参加者数	主 催
2006.8.23	「北8西3東地区第一種市街地再開発事業」現場見学会	大成建設現場担当者	10名	北海道支部
2006.10.16	「江別市内の歴史的建造物と煉瓦生産を訪ねる」	石垣秀人君 水野信太郎君	37名	歴史意匠専門委員会

9. 本部関連事業・その他

9.1 2006年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会(主査:川人 洋志君 委員数5名 委員会開催数1回)

支部審査員:

主 査: 川人 洋志君

委 員: 赤坂 真一郎君 小西 彦仁君 那須 聖君 山之内 裕一君

委員会活動として設計競技審査会を2006年7月19日、午後5時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」であり、6案の応募があった。5名の委員全員による活発な討議を経て「Stock」と「山と海の学校 トマリサイクル」の2案を支部入選案として決定した。

(文責:川人 洋志君)

(1) 審査講評

支部入選:有馬 大蔵君(室蘭工業大学)

「山と海の学校 トマリサイクル」は、かつて炭坑とニシン漁で栄えた集落を対象として、産業の衰退と原子力発電所のイメージにより生じた空き地（家）を題材としている。空き地を利用し、林間学校としての機能を導入することで、継続的に村の滞在者を増やすことを考えており、「エネルギーについて学ぶ」などプログラム自体に斬新さは見られないものの、空き地というミクロな単位に細分化され、明確な実態として把握しにくいブラウンフィールドのとらえ方が評価された。具体的な形態については敷地形状に起因する形態操作のレベルにとどまるが、空き家の利用や個々の断片化した空き地についても触れられると、建築物と余地という異なった形の遺産を包含した計画として発展すると思われる。

（文責：那須 聖）

支部入選：笹岡 歩君（北海道大学）

国内最大規模を誇った北炭夕張炭鉱に残され、現在解体中の自社炭使用火力発電所（1941年竣工）基礎部分を補強・拡張し使用する提案である。閉山によって衰退していく街を見つめなおし、たとえ夕張が都市としての末期を迎えようとも、人々の『故郷』を残そうとする設計者の深い愛情と強い意志が、静かに、そして詩的に表現されている。地面を掘り込む意味付け等に若干疑問を感じはするが、モノを収納する大空間が、人々をひきつける魅力を持って、この地に存在しつづけるであろうことを予感させる作者の案は、再生されたブラウンフィールドの将来像が見えにくかった他の案に比べ、評価に値する力強さを持っていた。

（文責：赤坂真一郎）

9.2 作品選集支部選考の実施

（1）作品選集支部選考部会活動報告（主査：佐藤 孝君 委員数9名 委員会開催数2回及び現地審査）

審査員：主査：佐藤 孝君

委員：金沢 俊邦君、川村 敏彦君、小西 彦仁君、関 弘義君、
田川 正毅君、保科 文紀君、山之内 裕一君、米田 浩志君

昨年も応募題数は少ないと感じていたが、今年はさらに少なく8題であった。全国審査への推薦題数は、応募題数から割り出されるため、少ない応募題数でレベルが高い作品が並ぶと支部推薦の難易度が高くなる。それゆえ北海道支部では、昨年につづき今年も厳しい選考となった。Aランク推薦の2題は満票で決まったが、推薦4題目の作品の選考に議論は集中した。「デザインと物質性へのこだわり」と「プランニングの普遍性」に評価が分かれ、微妙な差で4つ目の推薦作品を決めた。本部選考では、北海道推薦の4作品が全て選ばれ「掲載」となった。もう一つ多い推薦枠が欲しかった。

「中央警察署札幌駅前交番（川人洋志＋日本設計）」

「トラス下の矩形：五十嵐淳（五十嵐淳建築設計）」

「CELLS HOUSE（大河内学（明治大学）他）」

「関口雄揮記念美術館：徳本幸男ほか（竹中工務店）」

（2）作品選集支部選考の結果

支部応募作品数 8点

支部選考通過作品数 4点（本部採用4点）

作品選集掲載作品

- ・中央警察署札幌駅前交番
川人 洋志君：北海道工業大学
若杉 博文君：日本設計
- ・トラス下の矩形
五十嵐 淳君：五十嵐淳建築設計

- ・ CELL HOUSE
 - 大河内 学君：明治大学/インタースペース・アーキテクト
 - 郷田 桃代君：東京電機大学/インタースペース・アーキテクト
- ・ 関口雄揮記念美術館
 - 徳本 幸男君：竹中工務店設計部
 - 本井 和彦君：竹中工務店設計部
 - 渋谷 幸雄君：竹中工務店設計部
 - 長谷川圭一君：竹中工務店設計部

9.3 建築文化週間

(1) 体験学習「津波防災まちづくり in はまなか」

テーマ：津波防災まちづくり体験学習 in はまなか

主催：北海道支部

共催：北海道立北方建築総合研究所、浜中町

後援：北海道総務部危機対策局防災消防課

日時：2006年10月14日(土) 9:00～13:00

プログラム：1.地震・津波の話

2.室内避難体験

3.まちなか探検～避難場所、避難施設、避難経路

4.津波避難マップ作り

5.避難食づくり

講師：本学会北海道支部都市防災専門委員会委員、大柳佳紀（北海道立北方建築総合研究所）

会場：浜中町総合文化センター

参加数：59名

(2) 見学会及びシンポジウム

テーマ：江別市内の歴史的建造物と煉瓦生産を訪ねる

主催：北海道支部

共催：日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道建築士事務所協会

後援：北海道教育委員会、江別市教育委員会、江別市経済部

日時：2006年10月14日(土) 9:00～17:00

見学先：北海道江別市（旧肥田(ひだ)工場・現グレシャム市アンテナショップ、旧石田邸・現江別市ガラス工芸館、旧町村農場、酪農学園大学キャンパス・旧学生寮、米沢煉瓦(株)・煉瓦の製造工程見学など）

解説：本学会北海道支部歴史意匠専門委員会委員

石垣秀人（江別市教育委員会教育部学務課）

参加数：37名

9.4 日本建築学会創立120周年記念事業

「美しいまちをつくる、むらをつくる」

提案競技「滝川市郊外丸加高原」

応募数 10点

・最優秀賞 1点

・優秀賞 2点

・滝川市長賞 3点

写真コンクール「滝川市の魅力と美しさ」

応募数 20点

・最優秀賞 1点

- ・滝川市長賞 1点
- ・五十嵐賞 1点
- ・佳作 5点

絵画コンクール「私たちが暮らす滝川市」

応募数 362点

- ・最優秀賞 1点
- ・滝川教育長賞 1点
- ・五十嵐賞 1点
- ・佳作 10点

現場作業所見学会

日時：2006年8月23日（水）

場所：「北8西3東地区第一種市街地再開発事業」現場見学会

解説：大成建設現場担当者

参加者：10名

10．建築関連団体との活動

10.1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8名、開催数：4回）

本委員会は、合同事務所の運営および合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、合同事務所の環境改善、AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、北海道建築設計会議の活動、関連団体を含んだCPDの認定について、2007年3末に実施した事務所移転についてである。AIJ-JIA ジョイントセミナーは、第11回、2006年8月30日、講師：小澤丈夫君(北海道大学)、参加者30名を実施した。

10.2 北海道建築設計会議（幹事会 9回）

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本積算協会北海道支部および建築設備技術者協会の9団体により構成されている。本会からは、澤田幹夫と星卓志の2名を参加させた。幹事会においては、CPD（継続能力開発）の共同化、建築士制度等について情報交換や意見交換を行った。また、北海道主催の建築作品顕彰制度であった「赤レンガ建築賞」について北海道が廃止する方向であったことに対して、本会議の構成団体が主体となる実行委員会形式による存続の取り組みがなされたが、本学会としては北海道建築賞などの顕彰制度を有していることなどから、資金的及び事務局運営に関わる人的協力はすべきでないとの判断から、同実行委員会への参加は行っていない。

1 1 . 共催・後援（2006年度内に申請のあったもの）

期 日	名 称	会 場	主 催
後援 2006.6.19	「凍害の予測と耐久設計の現状 凍害と耐久性設計研究委員会 成果報告会」	土木研究所寒地土木研究 所	(社)日本コンクリ ート工学協会北海道 支部
2006.7.20	「安藤忠雄 特別講演会」	共済ホール	(社)北海道建築士会
2006.8.21 ~9.6	「室蘭サステイナブル・シテイ 国際デザインワークショップ	室蘭工業大学他	国際デザインワーク ショップ実行委員会 他
2006.9.6	第31回北の住まい住宅設計コン ペ		(社)北海道建築設 計事務所協会
2006.9.14	「温暖化と建築物との関係性」	札幌商工会議所	札幌商工会議所
2006.11.9	「第17回旭川建築作品発表会」	旭川市科学館 「サイパル」	旭川まちなみデザイ ン推進委員会
2006.11.16	「住宅のエネルギーと快適性」	札幌商工会議所	札幌商工会議所
2006.12.6	「大成札幌ビル」見学会 (支部構造、材料施工専門委員 会后援)	大成建設札幌ビル	(社)北海道建築技 術協会
2006.12.6	「コンクリートの補修・補強材 に関する技術セミナー」	ホテルポールスター札幌	(社)セメント協会 研究所
2007.1.26	「アスベストの基礎知識及び除 去工法・コスト」	札幌市教育文化会館	(社)日本積算協会 北海道支部
2007.2.9	「2006年5月ジャワ島中部地震 災害報告	北海道大学学術交流会館	(社)日本コンクリ ート工学協会北海道 支部
2007.3.5	「材料劣化が生じたコンクリ ート構造物の構造性能研究小委員 会」講習会	北海道大学学術交流会館	(社)土木学会北海 道支部
2007.3.7~ 3.16	「建築士のための指定講習会」	北海道自治会館 旭川市民文化会館 室蘭中小企業センター サン・リフレ函館 とかちプラザ 釧路市生涯学習センター	(社)北海道建築士会

2006 年度財産目録及び収支決算報告

2006 年度 財産目録

日本建築学会北海道支部

資産の部				資金および負債の部						
摘要	前年度末	本年度末	比較	摘要	前年度末	本年度末	比較			
基本財産				支部基金	3,510,000	3,510,000	0			
					学術振興基金	4,110,000	3,890,000	-220,000		
				災害調査研究基金	2,200,000	2,200,000	0			
				退職金積立金	300,000	360,000	60,000			
	計	0	0							
運用財産	現金	309,520	167,046	-142,474	金					
	預金	1,288,738	392,111	-896,627						
	普通預金	1,288,738	392,111	-896,627						
	未収金	0	76,000	76,000						
	仮払金	492,138	1,222,762	730,624						
	計	2,090,396	1,857,919	-232,477		計	10,120,000	9,960,000	-160,000	
引当財産	基金引当預金	3,510,000	3,510,000	0	未払金	0	0	0		
	定期預金	3,510,000	3,510,000	0		仮受金	483,731	591,140	107,409	
	学術振興基金引当預金	4,110,000	3,890,000	-220,000	負債					
	定期預金	4,110,000	3,890,000	-220,000						
	災害調査基金引当預金	2,200,000	2,200,000	0						
	定期預金	2,200,000	2,200,000	0						
	職員退職引当預金	300,000	360,000	60,000	繰越金	前期繰越金	0	0	0	
	定期預金	300,000	360,000	60,000		当期過不足金	1,606,665	1,266,779	-339,886	
		計	10,120,000	9,960,000	-160,000		計	1,606,665	1,266,779	-339,886
	合計	12,210,396	11,817,919	-392,477	合計	12,210,396	11,817,919	-392,477		

2006 年度 収支決算書

日本建築学会北海道支部

収入の部				支出の部					
摘要	予算額	決算額	増減	摘要	予算額	決算額	増減		
交付金	支部費	1,470,000	1,544,000	74,000	事業費	調査研究事業費	830,000	765,576	-64,424
	経営助成費	2,490,000	2,340,000	-150,000		表彰関係費	885,000	772,498	-112,502
	事業交付金	2,080,000	2,092,000	12,000		設計競技費	40,000	7,874	-32,126
	支部事務所費	1,589,000	1,589,000	0		卒業設計展示費	40,000	25,467	-14,533
	支部事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	330,000	325,291	-4,709
						ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾞﾙ等経費	2,750,000	2,546,195	-203,805
				委託調査研究費	0	0	0		
計	7,929,000	7,865,000	-64,000	計	4,875,000	4,442,901	-432,099		
副次収入	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾞﾙ等収入	2,650,000	2,635,007	-14,993	特別事業費	特別記念事業費	550,000	550,740	740
	調査研究受託収入	0	0	0		特別企画事業費	790,000	725,010	-64,990
	雑収入	600,000	620,557	20,557	計	1,340,000	1,275,750	-64,250	
	収入利息	5,000	8,541	3,541	会議費	総会費	240,000	235,650	-4,350
	計	3,255,000	3,264,105	9,105		役員会費	50,000	66,000	16,000
				運営費	30,000	22,750	-7,250		
				計	320,000	324,400	4,400		
前期繰越金	1,606,665	1,606,665	0	事務費	人件費	2,110,000	2,350,778	240,778	
基金取崩金	290,000	220,000	-70,000		通信費	260,000	268,140	8,140	
					消耗品費	60,000	106,192	46,192	
					印刷費	30,000	43,964	13,964	
					雑費	520,000	689,510	169,510	
					事務所費	2,270,000	2,187,356	-82,644	
				計	5,250,000	5,645,940	395,940		
				基金積立金	0	0	0		
				予備金	1,295,665	0	-1,295,665		
小計	13,080,665	12,955,770	-124,895	小計	13,080,665	11,688,991	-1,391,674		
資産収入				資産支出					
合計	13,080,665	12,955,770	-124,895	合計	13,080,665	11,688,991	-1,391,674		
収支差額						1,266,779	-28,886		

監査報告

2006 年度における社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2007 年 5 月 8 日

支部監事 _____

支部監事 _____

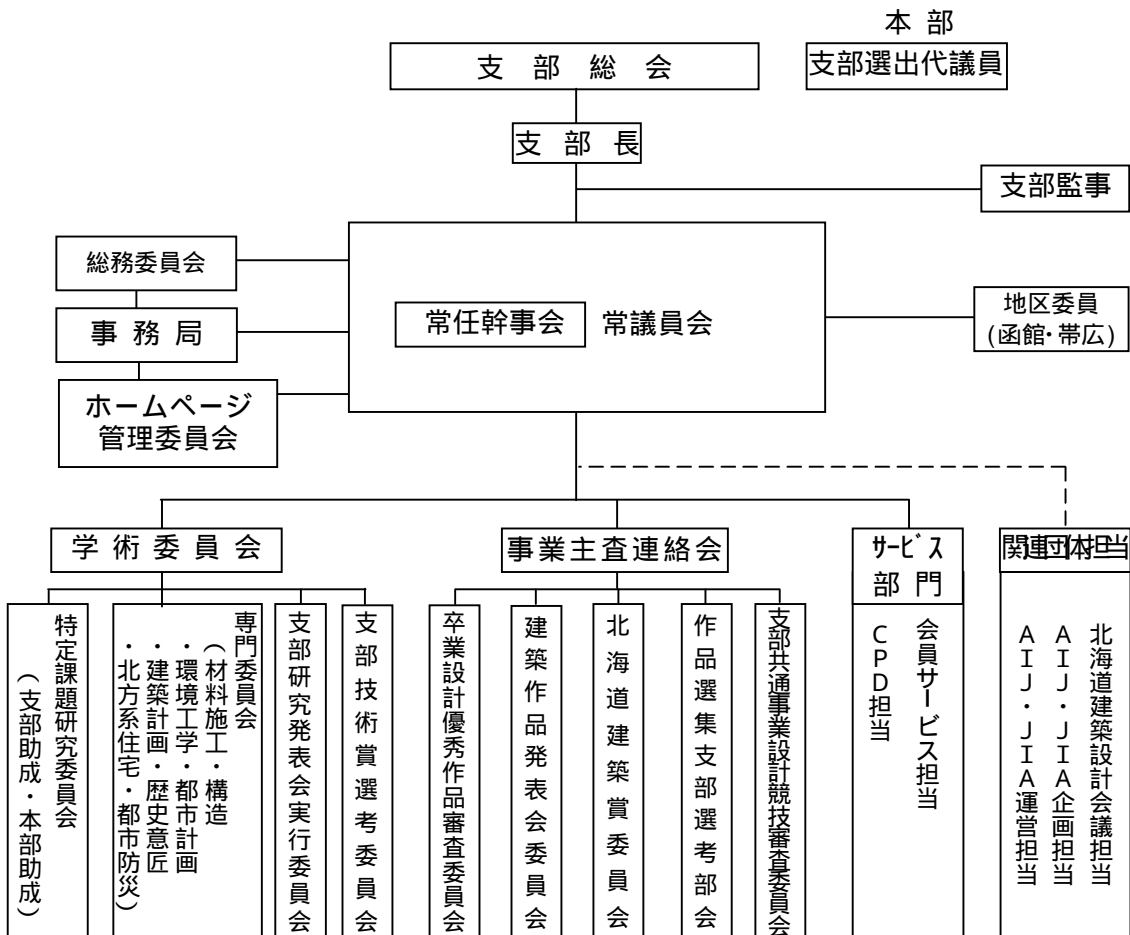
2007 年度事業計画方針案

1. 活動方針

近年、本学会支部の個人会員、法人会員の減少が進み、支部活動の経済的な基盤を揺るがすに至っている。その遠因は、遅い道内の景気回復よりも、本質的には少子高齢化の波及にあり、今後の会員数の自然増大は期待できない。その一方で、一昨年来の耐震偽装事件の余波は、土法の改正に直結した。建築界の健全な発展を担う学協会や業界団体との連携の上で果たすべき本学会の社会的な役割が、なお一層重要になっていることが認識されたと言える。

中長期戦略検討WGより、支部運営の中長期的視点（改善点）として 学会活動の活性化、支部体制の見直し、 支部活動の活性化なる 3 課題が提出された。2007 年度の活動案として、学会活動の活性化（会員増強・財政強化・財政改善）では、北海道支部技術賞を創設し、地域連携、技術振興、支部の財政改善に直結する賛助会員増強の足がかりとしたい。次いで、 支部体制の見直し（専門委員会・特定課題委員会・支部ホームページ管理委員会・地方組織）では、支部講習会等を企画し（CPD等を通じ）会員はもとより、会員外サービスに関する活発化を促す。また、 支部活動の活性化（支部研発表会・建築賞・情報提供・建築教育）では、建築教育の一環として、設計競技等を立ち上げ、建築系学部学生の支部活動参加数の増大を図りたい。

2. 2007 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2006.6.1-2008.5.31)

繪内 正道君 北海道大学大学院工学研究科教授

新任常議員(2007.6.1-2009.5.31)

伊東 敏幸君 北海道工業大学教授
大澤 一彦君 清水建設北海道支店開発営業部部長
菅原 秀見君 北海道日建設計設計室設計主管
田川 正毅君 北海道東海大学芸術工学部くらしデザイン学科助教授
長谷川拓哉君 北海道大学大学院工学研究科助教授
福島 明君 北海道建設部建築指導科課主幹
中渡 憲彦君 北海道職業能力開発大学校助教授
(印 常任幹事)

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2007年4月12日)により決定した。
支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(印 委員長)

菊地 優君 齋藤 文彦君 深澤 幸子君 羽山 広文君 星 卓志君

留任常議員(2006.6.1-2008.5.31)

伊藤 信泰君 大成建設札幌支店建築部工事長
桂 修君 北海道立北方建築総合研究所生産技術部
技術材料開発科科长
齊藤 文彦君 ドーコン建築都市部次長
鈴木 憲三君 北海道工業大学教授
深澤 幸子君 S . A . アーキテクト深澤建築研究所代表
星 卓志君 札幌市都市局市街地整備部住宅課住宅整備担当課長
溝口 光男君 室蘭工業大学助教授
(印 常任幹事)

新任代議員 (2006.4.1 ~ 2008.3.31)

飯田 雅史君 北海道工業大学教授
猪股 宣夫君 大成建設札幌支店副支店長
城 攻君 北海道大学名誉教授
(2007年3月の本部選挙の結果、上記3名が選出された)

留任代議員 (2006.4.1-2008.3.31)

武田 寛君 北海道工業大学教授
中岡 正憲君 北海道建設部住宅局長
藤島 喬君 T A U設計工房代表取締役

新任支部監事 (2007.6.1-2009.5.31)

那須 豊治君 岩田地崎建設技術部部長
(2007年4月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事 (2006.6.1-2008.5.31)

横山 隆君 清水建設北海道支店副支店長

地区委員（2007.6.1～2008.5.31）

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰

函館地区委員 山本 真也君 函館市企画部次長（兼函館市新幹線誘致推進室長）

3. 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2007年5月18日(金)

会場 北海道第二水産ビル

常議員会（複数回）

常任幹事会（複数回）

選挙管理委員会（支部役員選挙時に開催する）

4. 学術系委員会

4.1 学術委員会（主査：武田 寛君 委員数 16名、委員会開催予定数 4回）

活動方針

- ・ 学術委員会主査は、本部学術推進委員会の地域委員として年6回ほど本部委員会に出席し、本部委員会の情報を各専門委員会に報告する。
- ・ 当学術委員会は各専門委員会及び特定課題研究委員会から、調査研究の企画・計画・活動報告を受ける。
- ・ 支部研究発表実行委員会の企画の審議と承認
- ・ 特定課題研究、支部助成研究、建築文化週間の募集と選定を行う。
- ・ 支部長諮問事項についての検討を行う。
- ・ 各専門委員会の活動の横断的な連絡をする。

活動計画

- 第1回目：本部学術推進委員会報告。各専門委員会及び特定課題研究委員会活動計画。支部研究発表実行委員会の予定。建築文化週間の実施計画。
- 第2回目：本部学術推進委員会報告。各専門委員会活動報告。支部研究発表会次年度開催校の決定及び募集要項その他の検討事項。建築学会本部大賞候補の募集
- 第3回目：本部学術推進委員会報告。各専門委員会活動報告。支部研究発表会募集要項の決定。次年度の建築文化週間及び特定課題研究の募集。
- 第4回目：本部学術推進委員会報告。次年度の建築文化週間及び特定課題研究の選考。支部研究発表会特別企画の決定。特定課題研究及び建築文化週間の結果報告。
- ・ 技術振興賞の設置が承認されると、学術委員会でその審査を行う。

4.2 専門委員会

材料施工専門委員会（主査：濱 幸雄君 委員数 22名、委員会開催予定数 6回）

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最近の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下の通りである。

- 1) 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- 2) 勉強会（話題提供）
- 3) 「寒中コンクリート施工指針・同解説」の改定に向けた調査研究および意見交換
- 4) 見学会の開催
- 5) 道内巡回講演会

構造専門委員会（主査：桜井 修次君 委員数 19 名 + アドバイザー - 1 名 委員会開催予定数 4 回）
 これまでに引き続き、委員会を通して道内における構造関係の研究者・技術者との情報交換を行うと共に、各種行事を企画して地域の会員・市民への啓蒙活動を行う。主な活動予定は次のとおりである。

- 1) 委員会の開催：例年どおり 4 回行う（6 月，9 月，12 月，3 月）
- 2) 講演会・講習会：JSCA 北海道支部および他の建築関連諸団体と協力して実施する。
- 3) 施工現場見学会：道内で現在施工中の建築構造物の見学会を行う。
- 4) 工業高校巡回講演会：和田俊良君（職能開発大）が「阪神大震災から見た小樽 - 鉄筋コンクリート構造におけるせん断亀裂性状の重要性 -」（予定）の題目で行う。
- 5) 特定研究課題：「地震等による建築災害調査方法の研究」を実施する（主査：後藤康明君）。
- 6) 支部研究発表会特別企画：「風災害の事例と建築物の安全性の向上」が採択されたので、都市防災専門委員会と協力して実施する。

環境工学専門委員会（主査：石田 秀樹君 委員数 31 名 委員会開催予定数 5 回）
 環境工学本委員会や支部学術委員会等との連絡や、支部研究発表会をはじめとする通常の活動に加えて、以下の活動を予定している。

高齢化対応に関連する環境技術の検討及び事例の収集

北海道建築技術協会の「断熱建物の夏対応研究委員会」及び「中高層マンションの外断熱改修委員会」への研究協力を継続する。

06 年度に特色ある支部活動として取り組んだ、「積雪寒冷気候を生かした低コスト貯蔵技術による農業生産環境改善への貢献」について、普及資料等を作成する。

道内各大学の学生による環境工学系・卒業論文発表会を継続して支援する。

これらの活動を基に、市民・技術者を対象としたシンポジウムや見学会等を行うことを予定している。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 15 名、委員会開催予定数 5 回）
 「超高齢化社会の積雪寒冷地における居住環境整備の課題」を 2007 年度の活動テーマに事業展開を図る。団塊の世代の大量退職が迫り、超高齢化に踏み込もうとしている昨今の焦眉の課題として、居住環境の再生・再構築について委員会を重ねて考えていく予定。2007 年 10 月期に、「超高齢化社会の積雪寒冷地における居住施設及び環境整備の課題（課題）」（於旭川）をテーマにシンポジウムまたはフォーラムの開催を予定。

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君 委員数 15 名、委員会開催予定数 5 回）
 都市計画委員会では会員以外も活動に参加できるよう、「まちづくりプラットフォーム」を組織し、都市計画やまちづくりに携わる研究会を企画している。平成 19 年度は北海道における「コンパクトシティ」「ニュータウン再生」および「都市農村交流」の具体的方策を検討する研究会を進める。平成 19 年度に予定する、主な研究会の内容は以下の通りである。都市農村交流に関する研究として、イギリスニューカッスル大学と合同で「移住による地域再生」研究会を札幌で行う。国土交通省の専門館による「コンパクトシティ」講演会および研究会を札幌で行う。本部都市計画委員会地方都市小委員会と共催で、「まちなか居住」「ニュータウン再生」研究会を行う。本部「まちづくり支援建築会議」との共催で、まちづくり研究会を行う。また、上記まちづくりの職能に関する研究会「まちづくりプラットフォーム」を継続して行う。

歴史意匠専門委員会（主査：水野 信太郎君 委員数 18名、委員会開催予定数 5回）

例年どおり、道内各地の歴史的建造物の現状を把握し、保存・活用に関する意見を委員間で共有し、必要に応じて学会として社会に発言する体制を用意する。2004年度から文化庁、北海道教育委員会に協力した調査が終了し、それを発展させる形で特定課題研究を「北海道の近代和風建築における建築意匠の展開過程と地域的特徴」として継続する。必要に応じて、歴史的建造物の保存に関する要望書を支部長名で提出する作業に協力する。また、市民への啓蒙活動として、建築文化週間中の10月20日に「函館の歴史と歴史的建造物を探訪する」と題する建築見学会を実施する。別に、委員会内部の活性化を図るために、委員相互の研究交流や情報交換を毎回の委員会の中で実施し、準備が整えば一般参加も可能な公開委員会の形に広げてゆくことも検討する。

北方系住宅専門委員会（主査：鈴木 大隆君 委員数 23名、委員会開催予定数 4回）

環境時代にふさわしいすまい・暮らし方を探ることを目的に、地域の実務家・実践家との協働による実践的な事例調査、ディスカッションを行い、例えば地域・ひとネットの構築等の具体的な提案を試みる。

1) 事例調査・ディスカッション

地域の実務家等を交え、事例調査や多角的なディスカッションを展開しながら環境時代にふさわしいすまい・暮らし方提案のための具体的な対応策を探る。

2) 地域・ひとネットの構築

地域特性に根ざしたすまい・暮らし方を展開していくためには、地域で核となるリーダーの存在が不可欠である。今年度は、本委員会と地域で活躍するリーダーとの協働化の第1歩として、地域・ひとネットを構築する。

都市防災専門委員会（主査：南 慎一君 委員数 21名、委員会開催予定数 2回）

通信委員会複数回、WG複数回）

本委員会の基本方針は、多領域、多地域に渡る防災関係機関（関係者）の連携を図ることにある。このため、委員会HPの運営及び防災ニュースの発行並びに災害委員会HPへの協力を行い、支部会員及び本部災害委員会との連携関係の構築を図る。自然災害調査では、関係機関と連携して迅速に対応する。調査研究では、建築災害調査方法研究委員会に協力する。他学協会との連携では、強震動評価及び風災害に関する調査研究を進め、研究会開催を目指す。地域住民との連携活動については、建築文化週間事業「津波防災まちづくり体験学習」をオホーツク海沿岸地域で開催する。

4.3 特定課題研究委員会

(2006年度より)

建築災害調査方法研究委員会（主査：後藤 康明君 委員数 10名 委員会開催予定数 5回）

前年度に実施したアンケートを分析し、学会が行う調査のあり方の検討を含め各WG中心に活動を行う。【WG1】地震災害調査経験者向けに、現地調査における問題点についてアンケート調査し、効率の良い調査方法を提案し、マニュアル化する。【WG2】0次調査、1次調査の結果を速やかに集計し、公表を行うためのデータベースの作成とその活用方法について検討を行う。北海道内における過去の災害調査のデータベースの状況調査として災害調査に関係する機関の災害データベース及び公表方法の現状調査を行う。また調査データベースの作成と活用方法については、北海道内の現状を元にデータベースの作成と活用方法の検討を行う。【WG3】自治体の要望から調査協力のあり方を整理することと、実際に協力関係があった事例を詳しく整理する。また、大学研究機関の連携については、支部のこれまでの実施例と新潟県中越地震時の外の研究機関の実施例などを整理する。

北海道の近代和風建築調査研究委員会（主査：羽深 久夫君 委員数 13名委員会開催予定数 5回）

2006年度より実施した「北海道の近代和風建築における建築意匠の展開過程と地域的特徴」の

2年度目として、2004年度より実施した「北海道の歴史的建造物における和風意匠の展開過程」の研究成果を踏まえながら、北海道における近代和風建築の特徴を各地域ごとに共通してあらわれる和風意匠と、各地域ごとに特徴的にあらわれる和風意匠に大別して検討するとともに、既に調査済みの都府県の近代和風建築総合調査結果と比較しながら、北海道における近代和風建築における和風意匠の特徴を明らかにする。本研究成果は支部研究発表会をはじめとして、関係機関にて報告する。

4.4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2007年度より)

寒冷地工事仕様調査研究委員会(主査:長谷川 拓哉君 委員数:22名(予定))

JASSシリーズは、建築学会の建築工事標準仕様書であるが、東京周辺の委員で作成されていることが多いため、北海道などの寒冷地について対応した記述が十分ではない場合もある。寒中コンクリート施工指針のような例はあるが、鉄筋コンクリート工事以外では寒冷地対応についてまとめられていない場合が多いのが現状である。一般にJASSは教科書的に使われていることが多いことから考えると、寒冷地に関する情報があれば、寒冷地以外の技術者のボトムアップにもつながると考えられる。

本課題では、寒中指針が対応するJASS5以外のJASS(JASS8、15、18、23等)を対象として、寒冷地への対応状況を調査するとともに、適正な寒冷地工事仕様の検討を行うことを目的とする。

5. 支部研究発表会

5.1 支部研究発表会実行委員会(主査:羽山 広文君 実行委員会委員17名、委員会開催予定回数:5回)

支部研究発表会を企画・運営することを責務として支部研究発表会実行委員会が設置されており、この委員会の主な活動内容を以下に示す。

- 1) 支部研究発表会日程と会場の決定
- 2) 支部発表会の論文原稿種別、発表形式の確認、決定
- 3) 論文執筆要領の作成と原稿募集記事の建築雑誌掲載および原稿募集事業の実施
- 4) 特別企画のテーマ募集事業の実施および特別企画テーマの選定
- 5) 論文原稿の受付・編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成および建築雑誌掲載記事の手配
- 6) 支部研究発表会事業の実施

5.2 支部研究発表会の実施

2007年度の研究発表会は以下のように予定されている。

論文締切り:4月23日(月)消印有効

開催日時:7月21日(土)

場所:北海道職業能力開発大学校(小樽市)

6. 表彰

6.1 北海道建築賞

(1) 賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰を行い、より一層の建築創作活動の促進を図る。

(2) 北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第32回北海道建築賞の応募期間：2007年4月15日(日)～5月15日(火)
- 2) 審査期間：6月上旬(書類審査)～7・8月(現地審査)～9月上旬(最終選考)
- 3) 結果発表：9月下旬(常議員会での承認後)
- 4) 北海道建築賞授賞式および受賞記念講演会：10月27日(土)予定

6.2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)

(1) 賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

(2) 卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2007年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2006年度と同様、2007年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に、各部門、金、銀、銅、各賞を選出する。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6.3 卒業優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6.4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6.5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に係って、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7.1 北海道建築作品発表会委員会（主査：佐藤 孝君 委員 3名 実行委員 10名 委員会開催数 6回（実行委員会 2回を含む））

2007年度の目標も引き続き、事業収支の改善である。発表登録費の見直し、作品集コストの検討などを図り、可能性を検討し、実施できる部分より着手することである。建築作品発表会は、北海道支部の特色ある事業という認識に立ち、北海道の建築の質の向上に寄与することが重大な使命であり、建築作品を発表することによる情報発信とそこで行われる議論の蓄積と充実、他の建築系諸団体にとっても最良のCPDのコンテンツ供給であると認識して、その質を高めることを今年も目指していきたい。

7.2 北海道建築作品発表会の実施予定

作品の応募時期：8月下旬～9月下旬
作品集原稿締め切り：10月中旬
作品発表会開催時期：12月初旬の中の1日間
作品発表会開催場所：道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査、事業主査連絡会担当常議員 予定開催数：複数回）

事業系5委員会の事業進捗状況とその際の問題点等を適宜把握し、意思決定機関である常議員会へ改善提案等を行って行くための役割を今後も果たして行くような活動を行って行く。さらには、各事業が連携しつつ活性化が計れる可能性を検討する。

8.2 総務委員会（委員長：羽山 広文君 委員数4名 予定開催数2回）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により支部の財政状況がさらに悪化していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに、事務局業務の効率化、会議室の有効利用についても適宜検討を継続的に行う。さらに、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会(2007年度) (予定)

委員長	羽山 広文君	北海道大学	(教育機関の常議員経験者)
委員	那須 豊治君	岩田地崎建設	(民間機関の常議員経験者)
"	福島 明君	北海道建設部	(行政機関の常議員経験者)
"	未定		(留任常議員)
"	未定		(新任常議員)

8.3 ホームページ管理委員会（主査：十河 哲也君 委員数：5名）

当委員会は当支部ホームページの管理を活動の目的としている。5名の委員で構成され、委員会の定例開催は特に設定していないが、掲載内容等について適宜通信により協議することとしている。2007年度は、前年度に引き続き既掲載内容や行事案内等を迅速に更新・掲載し、時宜を得た会員への情報提供を行うとともに、会員外に対しても広く日本建築学会および当支部の活動を宣伝するため、各種委員会の活動状況、行事の案内および活動報告などを適切に掲載し、当ホームページの更なる充実を図る。

9 . 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9 . 1 本部主催講習会

2007 年度本部主催支部共通事業講習会を開催する。

9 . 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9 . 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9 . 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10 . 本部関連事業・その他

10 . 1 2007 年度支部共通事業設計競技の実施（主査：川人 洋志君 委員数 5 名 委員会開催予定数 1 回）

2007 年度設計競技審査委員会の委員には、主査川人洋志、委員、赤坂真一郎、小西彦仁、那須聖、山内裕一の 5 名で行う予定である。

2007 年度の課題は「人口減少時代のマイタウンの再生」と決定され、7 月中に支部審査を 1 回、行う予定である。なお、昨年以上の応募数確保のため、各大学関係者に参加の呼びかけを適切な時期に行いたいと考えている。

10 . 2 作品選集支部選考部会（主査：米田 浩志君 委員数 9 名 委員会開催予定数 2 回及び現地審査）

2007 年度も、6 月の本部委員会の決定事項を受けて、支部では 7 月から 8 月にかけて部会を開催予定である。「作品選集」掲載数はその総数が 100 題以内と決まっており、各支部から本部委員会への推薦数は、支部への応募数に応じて決定されている。つまり支部への応募数が多いほど、本部への推薦枠が多く獲得できるわけである。2007 年度は、支部会員にさらに周知徹底を図ることで、質の高い作品がより多く応募されるものとする。

10.3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 「津波防災まちづくり体験学習」 (都市防災専門委員会)
2. 「函館の歴史と歴史的建造物を探訪する」 (歴史意匠専門委員会)
3. 「第32回北海道建築賞授賞式・授賞記念講演会」 (支部主催)

11. 建築関連団体との活動

11.1 AIJ JIA 合同委員会 (委員数(AIJ)：常任6名、委員会開催予定数3回)

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、合同で行う企画について協議する。ジョイントセミナーについても継続して行うように計画を進める。また、北海道建築設計会議と連携して、関連団体を含めた企画等の活動を積極的に行う。

11.2 北海道建築設計会議

9団体により構成されている本会議は、CPD(継続能力開発)の共同化や、建築士制度のあり方、および建築士制度の問題をいかにして社会・市民に対して説明してゆくかについて、引き続き意見交換をおこなう予定である。

2007 年度収支予算案

日本建築学会北海道支部

収入の部					支出の部				
項目	予算額	昨年度	増減		項目	予算額	昨年度	増減	
交付金	計	6,986,000	7,929,000	-943,000	事業費	計	4,380,000	4,875,000	-495,000
	支部費	1,428,000	1,470,000	-42,000		調査研究事業費	730,000	830,000	-100,000
	経営助成費	2,370,000	2,490,000	-120,000		表彰関係費	730,000	885,000	-155,000
	事業交付金	1,030,000	2,080,000	-1,050,000		設計競技費	40,000	40,000	0
	支部事務所費	1,858,000	1,589,000	269,000		卒業設計展示費	40,000	40,000	0
	支部事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	340,000	330,000	10,000
副次収入	計	3,060,000	3,255,000	-195,000	特別事業費	計	290,000	1,340,000	-1,050,000
	シホジ 弘等収入	2,500,000	2,650,000	-150,000		特別企画事業費	290,000	790,000	-500,000
	調査研究受託収入	0	0	0		特別記念事業費	0	550,000	-550,000
	雑収入	555,000	600,000	-45,000	会議費	計	310,000	320,000	-10,000
	収入利息	5,000	5,000	0		総会費	210,000	240,000	-30,000
繰入金	計	1,956,779	1,896,665	60,114	事務費	計	6,063,000	5,250,000	813,000
	前期繰越金	1,266,779	1,606,665	-339,886		人件費	2,110,000	2,110,000	0
	基金取崩金	690,000	290,000	400,000		通信費	260,000	260,000	0
						消耗品費	90,000	60,000	30,000
						印刷費	40,000	30,000	10,000
						雑費	910,000	520,000	390,000
					事務所費	2,653,000	2,270,000	383,000	
				予備金	計	959,779	1,295,665	-335,886	
					基金積立金	0	0	0	
合計	12,002,779	13,080,665	-1,077,886	合計	12,002,779	13,080,665	-1,077,886		

基金・積立金内訳

2006年度末(決算)		2007年度末(予算)	
支部基金	3,510,000	支部基金	3,110,000
災害調査研究基金	2,200,000	災害調査研究基金	2,200,000
学術振興基金	3,890,000	学術振興基金	3,600,000
職員退職積立金	360,000	職員退職積立金	420,000

* 支部基金の差額40万円は、2007年度事務費として一般会計に繰り入れた。
 具体的には、2007年3月末の事務所移転に要する費用に充当するためである。

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿
法人正会員

2007年3月末現在

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00502-83	1	荒井建設(株)	00547-58	2	戸田建設(株)
00503-64	1	伊藤組土建(株)	00553-56	1	(株)巴コポレシオン
00505-34	2	岩倉建設(株)	00557-04	1	日鐵セメント(株)
00505-50	2	岩田建設(株)	00614-45	1	日本データサービス(株)
00512-89	3	(株)大林組	00555-50	1	西松建設(株)
00512-97	1	(株)大林組	00560-51	1	(株)日本設計
00515-72	1	(株)岡田設計	00561-82	1	日本防水総業
00617-89	1	(株)画工房	00573-66	1	(株)三菱地所設計
00567-92	2	北電興業(株)	00625-81	1	(株)アトリエ・アク
00517-00	5	鹿島建設(株)	00586-89	1	北農設計センタ-
00611-61	1	曾澤高圧コンクリ-ト(株)	00597-74	1	(株)総研設計
		技術部	00565-64	1	(株)フジタ
00614-38	1	(株)ホム企画センタ-	00616-32	1	(株)北方住文化研究所
		総務部	00568-07	1	(株)ドーコン
00523-82	1	(株)熊谷組	00618-60	1	北海道建築設計監理
00530-03	1	(株)札幌日総建			(株)
00568-23	2	(株)北海道日建設計	00568-15	2	北海道コンクリ-ト
00571-46	3	丸彦渡辺建設(株)			工業
00540-41	5	大成建設(株)	00531-84	1	清水建設(株)
00575-10	1	宮坂建設工業(株)	00538-83	2	(株)田中組
00544-49	2	(株)竹中工務店	00674-50	1	(株)中原建築設計
00674-76	1	(株)間組 札幌支店建築部			事務所
00656-02	1	坂本建設(株)	00684-14	1	(株)三暁プレコン
00645-91	1	豊平製鋼(株)			システム
00659-11	1	(株)都市設計研究所	00685-29	1	不二サッシ(株)北海道
00662-76	1	(株)松原組一級建築士			支店
		事務所	00704-45	1	(株)アトリエ・ブンク
00674-84	1	五洋建設(株) 札幌支店	00704-09	2	(財)北海道建築指導
00549-52	1	東急建設(株) 札幌支店			センター
			00708-51	2	北海道旅客鉄道(株)
			00701-51	1	(株)INA 新建築研究所
					札幌支店
			00710-77	1	(株)久米設計札幌支社
			00684-22	1	(株)北海道サンキット

賛助会員

会員番号	口数	会員社名・団体名
00814 -70	3	北海道電力(株)
00810 -06	1	道都大学附属図書情報館
00813 -49	1	(株)NTT ファシリティ -ズ北海道支店 営業推進部
00815 -01	1	北海学園大学附属 図書館
00815 -19	1	札幌建築デザイン専門学校
00847 -03	1	(株)総合資格



社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>